

科博オンライン・サイエンスコミュニケーションセミナー

2025.3.8 ~ 29 Sat

ライブ配信
&
オンデマンド配信

概要・お申し込み方法

【定員】各 150 名（先着順）

【受講料】各 2,500 円

※各講座ごとに受講いただけます。

※4 講座セットのお申込み（8,000 円）

も可能です。

【申込方法】下記の URL より、講座の詳細および注意事項等をご確認いただいた上でお申し込みください。

<https://2025-kahaku-sc-online.peatix.com>

【申込締切】各コマ実施日の 5 日前まで

お申込みはこちら→



3 月 8 日（土）17:00-18:30

「科学を語ってなにを伝えるのか——

あるサイエンスコミュニケーションの現場から」

サイエンスコミュニケーションの目的は、科学を語ることそのものではありません。これを実践する私たちは、聞き手の関心を感じとりながら、科学のさまざまな側面を語って、なにごとかを「伝える」ことを目指しているはずです。この講義では、主に科学博物館での実践事例を題材としながら、サイエンスコミュニケーションにおける目標設定と手法選択の技法について一緒に考えます。



河野 洋人（こうの ひろと）

国立科学博物館 理工学研究部 科学技術史グループ
研究員

3 月 15 日（土）14:00-15:30

「サイエンスコミュニケーターの役目～「つなぐ」こと再考～」

国立科学博物館はサイエンスコミュニケーターのしごとを「人と人あるいは科学と社会をつなげる」と説明しています。本講義は「つなぐ」ことについて、1) サイエンスコミュニケーションの目的、2) 「つなぐ」とはどういうことか、3) 社会学の相互行為の理論を踏まえながら、講師が行っている演劇を使ったサイエンスコミュニケーション実践について紹介します。



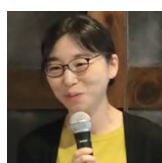
種村 剛（たねむら たけし）

北海道大学 大学院教育推進機構 リカレント教育推進部
特任教授

3 月 22 日（土）14:00-15:30

「市民と研究者が共に作り上げる研究のかたち」

市民が研究者と協力して行う市民参加型の研究活動「シチズンサイエンス」が始まっています。シチズンサイエンスでは、市民がデータ収集や分析などを通じて研究に関与することで新たな視点や発見が生まれています。シチズンサイエンスの課題や可能性、実践を通じた学びや試行錯誤の過程についてお話します。



一方井 祐子（いっかたい ゆうこ）

金沢大学 人間社会研究域 地域創造学系 地域創造学類
准教授

3 月 29 日（土）14:00-15:30

「サイエンスコミュニケーションを実践する研究者の視点」

研究者兼サイエンスコミュニケーターとして研究との関連の有無にかかわらず様々なサイエンスコミュニケーションを実践してきましたが、それらは結果的に自身の研究活動に還元されています。本講義では研究者がサイエンスコミュニケーション活動によって得られた効果について、具体的な事例を紹介していきます。



水川 薫子（みずかわ かおり）

東京農工大学 農学研究院 物質循環環境科学部門
講師

お問い合わせ

独立行政法人

国立科学博物館

学習支援部 学習課 SC 講座担当

E-mail : sc@kahaku.go.jp

伝える
コミュニケーション
能力を高める

つなぐ
コーディネーション
能力を高める

活かす
社会のさまざまな
場面で活かす

深める
科学に関する
専門性を深める